

私の趣味

古澤陽一

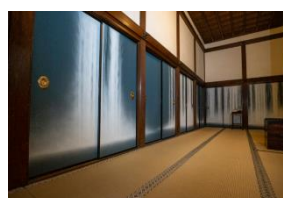
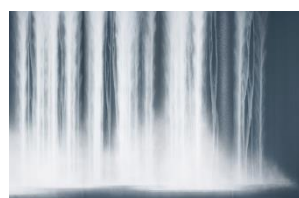
絵画鑑賞は私の大好きな趣味の一つです。いつも美術館に行っています。私がこれまで行ったことがある美術館で、最も印象深い美術館は矢張りロシアのエルミタージュ美術館です。この美術館は世界遺産にも登録されていますが、規模の大きさ所蔵品の多さには驚ろかされます。



私は特に人物画、風景画、抽象画が好きです。外国の画家の中では、日本でも有名なフェルメールが一番好きです。彼は一生の間におおよそ 35 枚の絵しか描いていません。謎の多い画家とも呼ばれています。私は彼の絵の内、15 枚は既に観ました。私の夢は彼の残りの絵を観るために、その絵を所蔵している美術館に行くことです。



現代の日本画家の中では千住博さんが大好きです。軽井沢千住博美術館は数回訪れたことがあります。彼の絵の中で、特に滝をモチーフ(主題)にした絵が好きです。彼は日本有数の仏教の聖地である高野山金剛峯寺に滝や断崖(岩石)を描いた大型の組画(襖絵)を奉納しています。



私は後藤純男画伯の絵も好きです。彼の絵を観るために家内と一緒に北海道富良野にある後藤純夫美術館も訪れました。只、残念なことに彼は5年前に亡くなりました。



美術館毎にそれぞれの歴史と物語があります。それが故に、非常に興味をそそられます。美術館に行き非常に自分を魅了する絵に出会った時は、足を止め長い時間鑑賞しています。“この画家はどんな気持ちでこの絵を描いたのだろうか？ どうしてこの色を使ったのだろうか？なぜこの構図なんだろうか？”等、色々考えながら絵を観ています。お気に入りの画家については、経歴や生い立ちを知りたいと思い、いつも本を買い読みます。

特に海外で勤務している時は、困った時、悲しいことがあった時、あるいは忙しくて疲れている時、美術館に行って絵を観ていると、心身がリラックスし心が安らぎ、新たな活力が生まれました。他のことは完全に忘れて、目の前の絵とこの絵が見せてくれる物語に集中して、しばし静かな時間を過ごすことが出来ました。

私は多くの絵画を所有しています。結婚祝いに上司に戴いた絵、ぶらりと店に入るやいなや気に入りすぐ買ってしまった絵、海外の街の道ばたで買った画家の卵の人が書いた絵など。高価な絵ではないですが、皆それぞれ良い思い出があります。



自宅ではこれらの絵を壁に掛け鑑賞していますが、定期的に絵を入れ替えて鑑賞しています。これらの絵を観ると、いつどこで購入したかとか、その時の周囲の状況や人々のことなどハッキリと思い出すことが出来、これも又楽しい時間です。絵を観ると本当に豊かで幸せな気持ちになります。私にとって絵画鑑賞は人生に無くてはならないものです。私は絵を描きませんが、挿絵（イラスト）を画くのは好きで十数年絵日記を書いています。

疫病(コロナ感染)がまだ続いているため、今は美術館には行けないので、“Google Arts&Culture”というオンライン美術館にはまっています。ネット上で世界各地の有名な美術館の絵を鑑賞することが出来ます。

